

「手打小学校の手踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立手打小学校

2 学年・人数

子岳地区の全児童生徒（2名）

手打小学校1～4年生（14名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

【子岳地区の全児童生徒】

令和元年9～10月 子岳地区コミュニティセンター

【手打小学校1～4年生】

令和元年9月10日（水）、12日（金）、18日（木）手打小学校体育館

〔令和元年9月11日（木） 伝承者による指導〕

(2) 発表の日時・場所

【手打小学校1～4年生】

令和元年9月21日（土） 手打小・海陽中・校区合同秋季大運動会

【子岳地区の全児童生徒】

令和元年10月14日（月） 蛭子神社祭りでの奉納（蛭子神社）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

手踊り（ておどり）

(2) 由来

子岳地区の手踊りの由来ははっきりしないが、江戸時代から踊っていたと思われる。（下甕村郷土誌より）

(3) 構成等

構成員数は、踊り4人、太鼓1人、拍子木1人で構成される。ハンテンまたはハッピ、鉢巻、タスキ、博多帯、手甲足絆、足袋ワラジ、刀、扇子を身に着ける。口紅とおしろいで化粧する。

踊りの構成は、①出羽「太鼓と拍子木で踊る。」②中踊「刀を使って踊る。」③入羽「一人残って太鼓と拍子木でハ、ハ、ハ、ソラオイオイで終わる。」の順である。

5 保存会や地域との連携の具体策

子岳地区の児童生徒は、手踊り保存会が中心となって、伝承活動を行っている。手打小学校1～4年生には、伝承者が講師として来校し、毎年1～2時間程度指導をいただいている。その後は、体育やふるさと・コミュニケーション科の授業で練習を行っている。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

学校が伝承活動に協力できるようにするために、また連携しながら伝承していけるようにするために、毎年地区との合同運動会で披露するようにしている。さらに、伝承者による指導時間が限られているので、子岳地区の児童がリーダーとなって、他の1～4年生に教えるようにした。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



伝承者による指導



小・中・校区合同秋季大運動会での発表

蛭子神社祭りでの奉納

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想や意見

【2年生児童】

子岳地区に伝わる手踊りをしっかり覚えたいです。そして、運動会に向けて、一生懸命練習しました。右と左に足を上げたり声を出したりすることを揃えるのが難しかったです。声を出すところはとても大事だと言われたので、大きくはっきりとした声を出すようにしました。みんなできれいに揃えらるとかっこいいので、何度も練習して、かっこよく決められるように頑張りました。

【4年生児童】

今年もお手本としてみんなの前で踊りました。太鼓のリズムに合わせて大きく体を動かし、声も出しながら踊れました。テンポが取りにくい箇所もありますが、何回も練習しているうちに踊りが揃い、楽しい気持ちになりました。踊れる人が少なくなってきたそうなので、しっかり覚えて、たくさんの人にも覚えてほしいと思います。

【教職員】

今年も伝承者の中野さんが一緒に踊って教えてくださったので、児童もしっかり覚えることができました。昨年1年生として踊った2年生も思い出しながら友達と何回も踊って練習をしました。来年度はもっと早い時期から練習し、地域の伝統をしっかりと未来につなげようとする心が育てていきたいと思っています。

【保護者】

伝統芸能を運動会で披露することで、地域を愛する心が育ってほしいと思いました。

【保存会】

毎年、蛭子神社祭りで奉納することができるのは、子どもたちがしっかりと伝統をつないでくれるおかげだと思います。真剣に練習に取り組む姿を見ていると、心が熱くなります。これからもずっとこの子岳地区の伝統芸能を守ってほしいです。